

教育ひょうご

発行所 神戸市中央区中山手通4丁目10-8
兵庫県教職員組合
発行人 兵庫県教職員組合 代表者 森戸卓也
編集人 松浦明日香
電話 050(3538)2346
1部15円 年定価360円
(組合員の購読料は組合費の中に含む)

2026/2・15

No.2134

第75次教育研究全国集会

第30回近畿ブロック青年部交流学習会



Let's GO to HYOGO! ～学ぼう 語ろう つながろう～



1月10・11日の2日間、ラッセホールで近畿ブロック(以下、近ブロ)青年部交流学習会が開催された。県内各
地域組合や近畿各単組等から参加した青年部員約100人は、近ブロ独自の参加体験型の交流活動や、グループ討
議等をおこない、同じ思いを持つ仲間とのつながりを深めた。
1日目の全体講演会では、諏訪清二さん(兵庫県立大学)による「災害と防災教育にむき合う」と題した講演が
おこなわれ、防災・減災教育をすすめる上で知っておくべき事例や事実、子どもに教える・語り継ぐ内容等につい
て、熱く語られた。また、分科会では8つのグループにわかれ、ギターを使用したワークショップや避難所運営ゲー
ム、ディスカッション等をおこない、授業づくりや防災、人権教育について改めて考える機会となった。
2日目の分科会では、学校の働き方改革の現状や課題について話し合い、交流を深めた。

近ブロ青年部 交流学習会とは (要項あり)

2日間を通して参加者が
ともに語り合い、職場のさ
まざまな問題に対して発言
できる力を付けている。集
まること、を通して、「今

後の教育を担うのは青年な
んだ」という思いを互いに
共有し、「わかる授業・た
のしい職場(学校園所)」
の実現をめざして、教育労
働者としての力量を高め、
仲間とのつながりを深めて
いこう。
学校現場の多忙化が解消
されない今だからこそ、私
たち青年教職員は仲間と集
まり、同じ時間を共有し、
語り合い、青年部どうしの
つながりを強めることが必
要である。世代交代期の今
こそ、先輩教職員とのつな
がりも大切に、先輩方の
教育や組合活動に対する思
いや願いを語り継がなけれ
ばならない。さらに、青年
自らが組織拡大・強化のと
りくみに積極的に参画して
いくとともに、私たちの先
輩教職員が協力・協働のも
とに育んできた平和・人
権・環境・共生教育を自主
的・主体的に発展させてい
こう。

参加者感想

・防災について、子どもに
どのように伝えるか悩ん
でいたが、早く教えたく
なった。
・防災について、実践する
ことは難しいと感じてい
たが、教科とかけ算する
ことで子どもも教職員も
楽しく学べるのがよく
わかった。知ることで
ハードルを下げられると
いうこともわかった。
・現場視点での防災教育に



分散会の様子



分科会の様子



ついて学ぶことができ、
よい経験になった。防災
の異種格闘技、挑戦して
みたい。
・ダイレクトロードに関心
があった。今回体験して、
実践にむけて前向きに検
討したいと思った。
・人権について話ができた
ので、自分の実践と照ら
しあわせて自分の人権感
覚を深めることができ
た。
・人権に関する実践を聞
き、自分にはない視点で
すすめている学習だった
ので参考にして授業づく
りをしたい。後半の話し
合いでは各校の困り感を
共有できてよかった。
・ゲームを通して、実際に
震災が起こった時の対応
を学ぶことができてよ
かった。その中から自然
と会話が生まれ、楽しく
交流ができた。さすが教
職員だと思ふ場面もたく
さんあって、尊敬できる
仲間が増えてよかった。
・教員は指導者というより
も、支援者として子ども
の生活を応援する立場だ
と学んだ。どのような支
援が必要か、キーパーソ

ンを中心に考え、学級経
営や授業づくりに生かし
たい。
・自分のHRの内容にレ
パートリーが増えたので
よかった。「行事」でな
くても普段の授業で体験
活動ができる良い材料を
教えてもらった。
・日頃の話をたくさん聞
くことができた。他府県の
教職員と話す機会はな
かないので、とても楽
しい時間だった。
・平和教育は、広島・長崎
を中心にして思っていた
が、福島について考える
平和教育もあると感じ
た。そして、教えていく
立場として実際に自分が
見に行くことも大事だと
感じた。



あんしん むすぶ ●
教職員共済

https://www.kyousyokuin

「補償は見直しが大切です」

ご自宅の補償を
見直しませんか？

こんな方は
特に見直しをオススメします！
今、加入している保険(共済)について

01 保険料(掛金)が値上がりした

02 住宅ローンが完済となり
満期がくる

03 加入したときのまま
ほったらかしにしている

この機会に「教職員共済」へ
ご相談ください！

火災共済
住宅災害等給付金付火災共済
自然災害共済

お問い合わせも
お気軽にどうぞ！
詳しくはこちら！

資料請求・お問い合わせ

厚生労働省認可
教職員共済生活協同組合 兵庫県事業所

※ご契約にあたっては必ずパンフレットおよび重要事項等説明書(契約概要・注意喚起情報)をご覧ください、制度内容をご確認ください。

第75次教育研究全国集会

憲法・子どもの権利条約を生かす教育改革を実現するため、

ゆたかな学びを保障するカリキュラムづくりをすすめるよう！

第75次教育研究全国集会(全国教研)が開催された。1月16日、全体集会在Webでおこなわれ、全国で約2,700人が視聴した。

24・25日、三重県で分科会がおこなわれ、全体集会和あわせて延べ8,000人が参加した。

全体集会是Webでおこなわれ、幅広い参加形態の中、多くの組合員等へ発信された。

記念講演

講演では、「出会えて、よかった」すべてのいのち



福永宅司さん



アルボンヌさん

「カリキュラム・オーダー」の解消が早急にもとめられる中、分会から積み上げ、組織教研で深められたリポートをもとに討議がおこなわれた。

また、戦後80年が経過し、平和教育の重要性・継続性の大事さや、外国につながる子どもの学びの保障、「学校の働き方改革」にむけての職場での改善例などの

りくみも報告された。子どもの教育を受ける権利や人権等の観点から、自分から多くのことを学ぶ機会になった。

特別分科会

「学校から出発する男女共同参画」というテーマで講演とシンポジウムがおこなわれた。

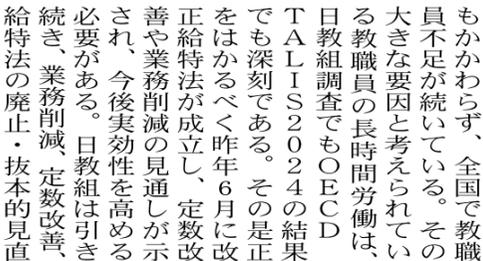
男女雇用機会均等法が施行されて40年をむかえる今、男女共同参画が遅々としてすすまない要因の一つが、学校や私たち教職員にあるのかもしれないという問いから、考えを深める場となった。

参加者からの感想(一部)

・インクルーシブとは、分離しないことを再確認できる会だった。分離されたことにより安心していられるという保護者や当事者がいることは、分離されない場に合理的配慮がなされている。変わるべくは私たちがであることを改めて感じた。

・全国の教職員と意見交流することで、自分が知らなかったことを知ることができ、とても有意義な時間だった。

・全国各地の実践や教育活動を通して普段から感じている思いが散りばめられた報告を間近で聞くこ



そのためには、子どもに寄り添い、一緒にあゆむ教職員の存在が欠かせないにもかかわらず、全国で教職員不足が続いている。その大きな要因と考えられている教職員の長時間労働は、日教組調査でもOECD TALEIS 2024の結果でも深刻である。その是正をはかるべく昨年6月に改正給付法が成立し、定数改善や業務削減の見通しが示され、今後実効性を高める必要がある。日教組は引き続き、業務削減、定数改善給付法の廃止・抜本的見直

しをもとめていく。そのような実態に鑑み、国連事務総長は2023年「教職に関するハイレベルパネル報告」を提出した。またそれに呼応して、E I (教育インターナショナル)も各国で「Go Public! Fund Education」を展開し、報告にある「公平な資金はGDPの少なくとも6%、政府支出総額の20%が保障されるべき」と訴えている。

そうした中、日教組がこれまで世界に発信してきた運動が認められ、昨年、国連人権理事会ソシヤルフォーラムに招聘され、ジュネーブでスピーチをおこなった。その中で私は、子どもの教育保障は人権問題としてとらえるべきで、インクルーシブでだれもが平等に学ぶことができる教育環境を保障していかねばならないと訴えた。また、そのための教育予算拡充が大切であることを、各国政府代表や国連認定NGOと議論し、連帯していくことが確認された。

次に世界情勢だが、ウクライナ、パレスチナともに日々情勢が変化しているが、一日も早い恒久的な和平がもたらされる。そうした中、1月3日、アメリカは国連憲章に反してベネズエラを一方的に攻撃し、これまでの国際秩序を自ら否定する動きを見せている。また、各国で自国第一主義や排外主義の勢力の台頭が散見され、分断と不寛容の危機に直面しているとも言える。日本においても、高市首相は、「存立危機事

態」発言や、安保三文書の前倒し改定、非核三原則の見直し、防衛装備品移転の5類型撤廃に言及している。日教組は、これまでの歴史に学び、武力で平和はつけないことを粘り強く訴え、「教職を再び戦場に送るな!」のスローガンのもと、平和運動にとりくみ、平和教育を推進していく。現在、政治情勢が大きく変化している。日教組は大方針に則り、日政連議員とともに、憲法・子どもの権利条約の理念実現をめざす勢力とともに闘っていく。「平和を守り、真実を貫く民主教育の確立」を掲げる教研活動も75次を数えた。情報があふれ、教育技術に関わるいわゆる「HOTT」は、だれでもネットや書籍から入手することができ、しかし、教研集会は、リポートに書かれている子どもの心情、地域実態、歴史的背景等を読み解き、そこに平和・人権・環境・共生を加味し、教育の基盤づくりを学ぶことができる絶対の場である。また、「カリキュラムの編成権は学校にある」ことを念頭に、保護者・地域のみならずカリキュラム編成はどうあるべきかを、とことん掘り下げるることができる貴重な機会である。その議論の結果が、現在検討がすすんでいる、学習指導要領改訂に対する私たちの答えになるのではないか。

このように75年間にわたって連綿と継続してきたこの教研活動は、E I等国際的にも高く評価されて

今、日本の子どものおかれている状況はどうだろう。不登校、いじめの認知件数、児童虐待対応件数、子どもの自死の増加も歯止めがかかっている。子どもの権利条約の前文には「児童が、社会において個人として生活するため十分な準備が整えられるべきで、国連憲章において宣明された理想の精神に従って育てられるべき」とある。今こそ子どもを権利の主体として認識し、社会全体で、その最善の利益を保障していくことがもたらわれている。

そのためには、子どもに寄り添い、一緒にあゆむ教職員の存在が欠かせないにもかかわらず、全国で教職員不足が続いている。その大きな要因と考えられている教職員の長時間労働は、日教組調査でもOECD TALEIS 2024の結果でも深刻である。その是正をはかるべく昨年6月に改正給付法が成立し、定数改善や業務削減の見通しが示され、今後実効性を高める必要がある。日教組は引き続き、業務削減、定数改善給付法の廃止・抜本的見直

しをもとめていく。そのような実態に鑑み、国連事務総長は2023年「教職に関するハイレベルパネル報告」を提出した。またそれに呼応して、E I (教育インターナショナル)も各国で「Go Public! Fund Education」を展開し、報告にある「公平な資金はGDPの少なくとも6%、政府支出総額の20%が保障されるべき」と訴えている。

そうした中、日教組がこれまで世界に発信してきた運動が認められ、昨年、国連人権理事会ソシヤルフォーラムに招聘され、ジュネーブでスピーチをおこなった。その中で私は、子どもの教育保障は人権問題としてとらえるべきで、インクルーシブでだれもが平等に学ぶことができる教育環境を保障していかねばならないと訴えた。また、そのための教育予算拡充が大切であることを、各国政府代表や国連認定NGOと議論し、連帯していくことが確認された。

次に世界情勢だが、ウクライナ、パレスチナともに日々情勢が変化しているが、一日も早い恒久的な和平がもたらされる。そうした中、1月3日、アメリカは国連憲章に反してベネズエラを一方的に攻撃し、これまでの国際秩序を自ら否定する動きを見せている。また、各国で自国第一主義や排外主義の勢力の台頭が散見され、分断と不寛容の危機に直面しているとも言える。日本においても、高市首相は、「存立危機事

態」発言や、安保三文書の前倒し改定、非核三原則の見直し、防衛装備品移転の5類型撤廃に言及している。日教組は、これまでの歴史に学び、武力で平和はつけないことを粘り強く訴え、「教職を再び戦場に送るな!」のスローガンのもと、平和運動にとりくみ、平和教育を推進していく。現在、政治情勢が大きく変化している。日教組は大方針に則り、日政連議員とともに、憲法・子どもの権利条約の理念実現をめざす勢力とともに闘っていく。「平和を守り、真実を貫く民主教育の確立」を掲げる教研活動も75次を数えた。情報があふれ、教育技術に関わるいわゆる「HOTT」は、だれでもネットや書籍から入手することができ、しかし、教研集会は、リポートに書かれている子どもの心情、地域実態、歴史的背景等を読み解き、そこに平和・人権・環境・共生を加味し、教育の基盤づくりを学ぶことができる絶対の場である。また、「カリキュラムの編成権は学校にある」ことを念頭に、保護者・地域のみならずカリキュラム編成はどうあるべきかを、とことん掘り下げることができる貴重な機会である。その議論の結果が、現在検討がすすんでいる、学習指導要領改訂に対する私たちの答えになるのではないか。

このように75年間にわたって連綿と継続してきたこの教研活動は、E I等国際的にも高く評価されて



日本教職員組合 中央執行委員長 梶原 貴

「ゆたかな学びを保障するために」



三重県教職員組合 中央執行委員長 山門 真

「ゆたかな学びを保障するために」

「ゆたかな学びを保障するために」

子どもを権利の主体として最善の利益を

おり、日教組運動の根幹をなすものである。今次教研においても、憲法・子どもの権利条約の理念を生かした教育を追い求めたい。

明した。その当日、三重県教組は中央委員会を開催した。中央委員会では、当然そのことが議論となり、中央委員からは、「今、期限を附さない講師として懸命に働いている仲間がいる。知事の発言はその思いをふみにじっている」、「多文化共生が子どものゆたかな学びと育ちにつながると思えており、育ちが育ちたのか、同じではなかったのか」など、非難の声が上がった。知事は、連合三重、三重県教組が推せんした人でもある。

その日のうちに、直接知事に中央委員会での議論の様子を伝えるとともに、私は、知事にこう言った。「ネットでは記事に対するコメントの多くが知事をほめたうえで、それらをすべて読んで、あなたの発表がどのような結果をもたらしている。」

全国から三重に集っていただく皆さんを心より歓迎する。そして、私どものとりにくみに対して、エールを送っていただければと思っ

らしているのかしっかりと感じていた」と。許可を得ていないので、知事がそれに対してどう反応されたかは、ここでは申し上げないが、今、私たちは、人権団体や自治労、県職労、連合三重とも連携しつつ、国籍条項の見直し方針の撤回にむけて、緊急要請をおこなうなど、とりくみすすめているところである。

本日の記念公演のテーマは、「出会えてよかった」すべてのいのちに輝きをおこす。三重県教組にとつてこれほどタイムリーなテーマはないと正直驚いている。

分科会の様子



4 数学教育



3 社会科教育



15 国際連帯・多文化共生の教育



14 インクルーシブ教育



24 総合学習と防災・減災教育



17 子ども・教職員の安全・健康と環境・食教育